

令和5年度

徳島市城東中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

未来を切り拓く、確かな学力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
根津道子	(校長)木屋村泰子(教頭)吉本真由美, 青木康友 (主幹教諭)野本裕章 (指導教諭)河野浩美 (教務主任)松谷良彦 (学年主任)細木香 (研修主任)板東瞳

校長

木屋村泰子

【小中連携または中高連携における共通の取組】

夢を描く力の育成

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業規律を守って学習に取り組み、授業内容が理解できたと答えている生徒が多い。 ●学力の二極化傾向が見られる。長い文章を読み取ることを苦手とする生徒も多く、全体的にも基礎的・基本的な知識・技能が十分に定着しているとは言えない。	・知識・技能の習得に向け、粘り強く学習に取り組むことができる。 ・習得した知識及び技能が定着し、既有的知識及び技能と結びつけて、他の学習や実生活の中で活用することができる。	・生徒が見通しをもって学習に取り組み、知識・技能を身につけることができるための授業の工夫について、各教科で話し合う。 ・「学び合いウイーク」や「ガーベラ会(メンター制)」、各種校内研修を設定し、ICTの活用や指導技術の向上をめざして教員同士で情報交換や研究を行う。	これまでの取組に加えて ・「学習のゴール」を意識し、これまでに身につけた知識や技能を生かせるような学習課題を設定する。	【教員】 ・「小テストの実施等による、定期的な授業内容の振り返り」(85%) ・「ICTの活用・板書の工夫」(70%) ・「授業の流れの提示」(75%) ・「毎時間の振り返りの実施」(83%) ・「研修等の活用による、ICTの活用や授業力向上のための情報交換の実」(82%) 【生徒】「授業の内容理解」(76%)	「学び合い強化月間」や「ガーベラ会(メンター制)」などをおし、ICTの活用の仕方、授業力向上等に向けて情報交換を行った。また、各教科部会においても指導や評価の在り方について研修・研究を重ねている。今後も引き続き、授業改善に向けて研鑽を積んでいきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達や先生の話聞き、今後の学習の参考にすることができる生徒が多い。 ●複数の考えから新しい考えを生み出したり、自分の意見や考えを相手にわかりやすく表現することが苦手な生徒が多い。	・情報を整理しながら読んだり聞いたりすることができる。 ・他者の考えを取り入れ、自己の考えを広げたり深めたりできる。 ・自分の意見や考えを、相手の意見を尊重しつつ伝え合うことができる。	・ペアやグループによる意見交換の場を積極的に設け、生徒が考えをまとめたり、思いを表現したりできるようにする。 ・単元の振り返りやレポートの作成、作品作りなど、記述したり表現したりする活動を全教科で積極的に取り入れる。 ・「朝読」の徹底と「読書ノート」の活用。	これまでの取組に加えて ・ホワイトボードミーティング等の手法を用いて、話し合いの場を積極的に設ける。	【教員】 ・「レポートの作成、作品制作等、思いや考えを表現する場の設定」(78%) ・「読書活動の推進に努めている」(87%) 【生徒】「根拠を明確にしながら、思いや考えを書いたり発表したりしている」(50%)	ホワイトボードミーティングの手法を用いた話し合いの取組が、若手教員を中心に少しずつ浸透している。合意形成のできる生徒の育成をめざし、今後も生徒が思いや考えを表現したり、話し合いを通して他者理解を深めたりする場を設定していきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業には落ち着いて取り組んでいる。また、テスト実施前には学習計画の立案や目標点の設定等を行うなど、前向きに学習に取り組む生徒が多い。 ●与えられた課題に対して真面目に取り組むが、「夢の実現に向けた主体的な努力ができる」とまでは言えない生徒がやや多い。	・将来の夢や目標をもち、その実現に向けて、自己調整を図りながら授業や家庭学習に主体的に取り組むことができる。	・「学力を伸ばしたい人のための生活改善10か条」や「徳島市キャリアパスポート」を活用し、基盤となる生活を整え、将来への見通しを持って学習に取り組めるよう、家庭と連携を図る。 ・生徒が主体的に学習に取り組めるよう、授業で扱う課題や指導方法、評価について各教科で研究する。	これまでの取組に加えて ・課題の与え方を見直し、生徒自身に学習の仕方をデザインさせる機会を設ける。	【教員】『学習の手引き』等を一回以上配付し、学習の仕方を指導している」(83%) 【生徒】 ・「家庭学習にきちんと取り組み、1日平均1時間以上勉強している」(71%) ・「定期テストの前には目標点や計画を立て、学習に取り組んでいる。」(74%)	生徒に学習計画をきちんと立てさせるとともに、必ず振り返りをさせ、自己の学びを調整させたい。また、学習活動に対するフィードバックを明確かつ迅速に行い、生徒の自己改善につなげられるようにしたい。

令和5年度 学力向上ロードマップ

